

墨書土器とその字形

—古代村落における文字の実相—

平川 南

はじめに

4. 同一書体の共通文字

1. 文字の種類——共通文字の存在——

5. 多文字の墨書土器の出現

2. 字形の類似

おわりに

3. 特殊文字の存在

論文要旨

古代の集落遺跡から出土する墨書土器は、古代の村落社会を解明する有力な資料である。また、これまで墨書土器は文字の普及の指標としてとらえてきた。その検討も含めて、これからは集落遺跡における墨書土器の意義は何かという大きな課題について新たな視点から考察する必要があるであろう。そこで、前稿（「古代集落と墨書土器」）では、特定した集落遺跡の分析を試みたが、本稿では、墨書土器の字形を中心に、より広域的見地から分析した。

その検討結果は、要約するとつぎのとおりである。

- 1) 墨書土器の文字は、その種類がきわめて限定され、かつ東日本各地の遺跡で共通して記されている。
- 2) 共通文字の使用のみならず、墨書土器の字形も、各地で類似している。しかも、本来の文字が変形したままの字形が広く分布している。
- 3) 中国で考案された特殊文字—則天文字—さらには篆書体などが日本各地に広く普及し、しかもそれに類するような我が国独自と思われる特殊な字形の文字を生みだしている。

限定された共通文字は、東国各地の農民が会得した文字を取捨選択して記したものでないことを示している。また変形した字形や則天文字・篆書体などの影響を受けた我が国独自に作成した特殊文字が広範囲で確認されている。

以上の点からは、当時の東日本各地の村落において、土器の所有をそうした文字—記号で表示した可能性もあるが、むしろ一定の祭祀や儀礼行為等の際に土器になかば記号として意識された文字を記す、いいかえれば、祭祀形態に付随し、一定の字形なかば記号化した文字が記載されたのではないだろうか。このように、字形を中心とした検討結果からは、集落遺跡の墨書土器は、古代の村落内の神仏に対する祭祀・儀礼形態を表わし、必ずしも墨書土器が文字の普及のバロメーターとは直接的にはなりえないのではないだろうか。